

保健福祉学部 教養教育部 教授 小古間 甚一

私の授業内容のほとんどは中学英語の文法の復習です。「大学で中学英語？」と思われる方もいるかと思いますが、英語学習にとってまず必要なことは、中学英語をしっかりと身に付けることです。前回のコラムで私の英文読解トレーニングを掲載しましたが、そのトレーニングの効果が出たのは、基礎的な文法が身に付いていたからだだと思います。「身に付ける」とは、「文法の知識を覚えるだけでなく、それを使って読んだり書いたりすることが出来る」という意味です。

では、どのようにしたら基礎的な文法力を身に付けることができるのでしょうか。私が中学生のときには、全文書き換え練習を徹底的に行いました。その練習によって培った文法知識はいまでも役立つています。



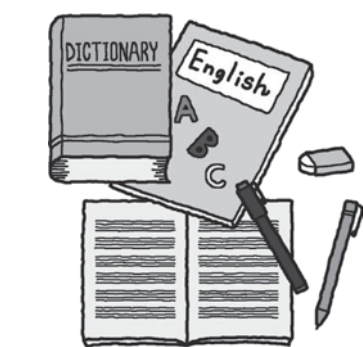
私の授業では主語と動詞(一般動詞とbe動詞、動態と受動態)、準動詞(分詞、動名詞、不定詞)、関係詞、ちよつとがんばって、仮定法まで行います。ほとんどが全文書き換え練習で学びます。学生が書き換え問題に取り組んでいる間、私は学生一人ひとりの答えをチェックします。学生によって間違え方が異なるので、個別にアドバイスをし、これが学生とのコミュニケーションにもなります。

授業で説明する内容は中学生レベルですが、試験には全文書き換え問題だけでなく、英字新聞などから難しい英文も出題します。基礎的な文法が理解できてい

るかを見るためです。TOEICの文法問題を見ても単語は難しいですが、中学英語レベルの知識を応用すれば解ける問題があります。中学英語は書くときの基本にもなります。英語が何となく読めても、書くのに苦労する学生が多いのは、基礎的な文法が身に付いていないからです。例えば、主語と動詞です。「I like」としなければいけないところを「I am like」や「I likeing」などと書いてしまう学生には、まず中学1、2年生レベルの英語をできるだけ正確に使用して平易な英文を書くことを目標とさせます。このレベルの文法が身に付けば、あとは単語を入れ替えるだけで英文は作れます。

「使える」文法の力とは、辞書を引き例文を参考にしながら、単語を入れ替えて英文が作れる力と言えるかもしれません。

また、本学の1、2年生の



すべての英語の授業では、課題としてコンピュータを使った読解トレーニングを取り入れています。文法は実践を通して身に付くものなので、授業で学んだ文法の知識をリーディングだけでなくライティングにも生かすよう指導しています。

中学英語を学生が理解し、身に付けることができるように、配布プリントの文法の説明をわかりやすくしたり、練習問題を差し替えたり、授業方法を常に工夫しています。学生が理解していなかったり、同じ間違えを繰り返すのを見てがっかりすることもありますが、そこは私と学生との根比べ。英語教師としての私の力量が試されているのかもしれない。

**大学図書館へようこそ!**

12月を迎え、大学4年生は国家試験や卒業論文の締め切りが迫ってきました。

図書館では個人用のスペースを数多く設置し、土曜日も開館するなど、学習環境を格段に快適に整備したので、遅くまで勉強している学生の姿が見られます。

**◀開館時間のお知らせ▶**

12月25日(月)まで 9:00~21:00

26日(火)から 9:00~17:00

※日曜・祝日は休館

※12月30日(土)~1月8日(月)は年末年始休館

**大学図書館にはこんな本があります**

~~英語の学習に関する図書~~

『もうこれで英語に挫折しない』

赤羽雄二/著 祥伝社

『まずは動詞を決めなさい』

網野智世子/著 サンマーク出版

『とつぜん会社が英語になった?! 気がつけばバイリンガル』

山久瀬洋二/著 IBCパブリッシング

『看護職のための英会話1000』

林さとみ/編 桐書房

**◆問い合わせ**

名寄市立大学図書館 ☎01654②4199(内線4201)